

山ノ内町立山ノ内中学校 — 山ノ内町の魅力の再発見と活性化に向けての課題を探る。

山ノ内町立山ノ内中学校は、志賀高原ユネスコエコパーク内に位置し、2017年にユネスコスクールに登録されました。山ノ内中学校では、地域にあるユネスコエコパークの志賀高原や、観光客に人気の渋温泉といった観光資源に着目しながら、ユネスコスクールとしての活動やESDに取り組んでいます。山ノ内中学校のESDは、1年生が知る、2年生が比較、3年生が発信をテーマに、学年行事を中心にして設定されています。3年間を通して自分の住む地域を知り、類似する他の地域と比較しながら、地域活性化のためにできることを考え、発信していくという一連の流れが含まれています。今回は1年生が、山ノ内町の魅力と課題を整理し、町の活性化に繋がる課題を探究した成果を発表しました。

ユネスコエコパークと地域の魅力探究 1年生は「知る」をテーマに、志賀高原ユネスコエコパークや地元温泉街について調査しました。活動は外来種駆除体験やトレッキング、地熱温泉学習などの活動を行い、グループでの議論を通じて学びを深めました。調査結果を文化祭で発表し、地域の魅力や課題について理解を深めました。その中で、温泉街の観光資源としての価値や、時代の変化に伴う観光ニーズの変化や観光客の減少、人手不足といった課題を明らかにしました。

地域活性化に向けた提案 生徒たちは調査を基に、ユネスコエコパークの認知度向上や観光資源の活用をテーマに課題解決策を考案しました。

- **ユネスコエコパークの認知向上:**
 - ユネスコエコパークの認知度が低いという課題に注目し、その解決方法をいくつか考えました。例えば、パンフレットやポスターを観光地に設置することで情報を広めることや、SNS等の活用、イベントの開催のほか、地域住民や外部の参加者を巻き込んだ取り組みの可能性についても検討しました。
- **観光客の増加を目指した取り組み:**
 - 生徒たちは、観光客の減少や少子高齢化に伴う地域の課題に注目しました。その中で、特産品の開発や販促を通じて地域の魅力を高めることや、遊び場の整備によって若い世代が定住したいと感じられる町にする必要性を提案しました。また、スタンプラリーやクイズイベントなどの企画を通じて、観光客に楽しんでもらえる取り組みを考えました。

活動の成果と未来への展望 これらの活動を通じて、生徒たちは地域の強みを再発見すると同時に、解決すべき課題についても理解を深めました。今後は、山ノ内町での課題の実態についてより深く調べるとともに、草津町との比較学習を通じて、探究を深めていきます。その結果として、地域への提案活動を通じて、山ノ内町の持続可能な未来に向けた貢献を目指します。